



### MEMORIES OF MAY



5/6ゴールデン勉強会



連休最終日の追い上げ



5/13テスト前勉強会 必死の高校部屋



マイペース中1・2部屋



中3部屋、余裕とか言っていました...



国見岳頂上



5/20雲仙登山



スタート直後は坂がキツク感じる



5/27グループホーム訪問



施設の方々と一緒に歌う

### 6月の特別活動の予定

#### 6/16 (土) 月の黙想会

一貫性のある人生を歩むために、自己のためになるものと、ならないものを見分ける方法について考えます。何より分別のある行動がいつも取れるよう神様に助けを願います。

#### 6/18 (月・振休)

##### アーチェリー

狙い通りに的のド真ん中を射止めた時は脳内でドーパミンが大量放出されます。

#### 6/24 (日)

##### テスト前勉強会

中間テストの反省を活かし、勉強のやりかたを工夫しましょう。



今月の司祭のお話

## 順風満帆の人生、突然の病

6月になりました。6月は高総体そして中総体という大きな行事があります。運動部に所属している人も、あるいは直接関係ない人も、この節目の大きな行事をうまく活用できたらなと思います。節目というのはしっかり意識して過ごす人にとってはとても意味深いものになっていきますから。好むと好まざるとによらずやってくる節目ですが、それを迎える時に、ある人はじっくりと考え自分を振り返って今後の生き方を決めていきます。



先日、ある女性の波乱に富んだ一生についての記事を読みました。その方の名前は井深八重さんと言います。1897年に由緒正しい家庭に生まれ、聡明な彼女は女学校で英語の勉強をして長崎県立女子高等学校に英語の教師として赴任して来ます。良い縁談にも恵まれ人生は順風満帆かと思われていました。しかし、22歳のある時運命は突然変わります。体の一部に赤い斑点ができ、それがなかなか消えなかったのです。診察を受けますが結果は知らされず、静岡県にある神山復生病院というところに連れて行かれそこで初めてハンセン病と宣告されたのです。当時この病気は「恥ずべき業病」と呼ばれ、出生や生い立ち、肉親・家族・友人などとの関係、過去の一切を断ち切らせるために本名を捨て、新しい別名を与えられます。八重さんは、毎晩泣き明かし、絶望のあまり何度も自殺を考えました。ところが3年後、期せずして診断が誤りであることが判明します。本来なら喜び勇んで元の生活に戻っていくところでしょう。しかし彼女は違いました。その病院で過ごした3年間は彼女の心を大きく変えたのです。祖国や財産、名誉などの全てを投げ打って働くフランス人院長のドルワール・ド・レゼー神父の献身的な姿をつぶさに見たのでした。彼女は自分もこの病院に残ろう、そして院長神父と共に世界から見捨てられた患者さんのために働こうと決心したのです。その後八重さんは病院初の看護婦としての資格を取得し、69年間働き続け91年間の生涯を閉じます。八重さんには思いがけず次々と節目がやって来たわけです。その度に、苦しみながらもしっ



かりとそれまでの人生を振り返り、目で見たり体験したことを味わい、人生の進路決定をしたことでしょうか。その生き方は今でも語り継がれています。私たちも節目の時を迎えた時にしっかりと決断できるようになりたいものです。そのためには、自分にだけ頼るのではなく、まず何よりも神様に頼り、心を開いて祈るような態度を磨いていけたらなと思います。  
〈裕恵介神父〉